

第2回 安芸市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

日 時 平成31年2月20日（水）13:30～15:20

場 所 安芸市役所 第1・2会議室

出席者（学識経験者）坂本委員（委員長）、門脇委員

（団体職員）山本委員、横田委員、尾原委員、松本委員、小松（身）委員

（行政職員）高知県：秋元委員

安芸市：竹部委員（副委員長）、岡田委員、国藤委員、北村委員、

角田委員、小松（正）委員、（欠席）宇根委員、門田委員、大野委員、

小松（仁）委員）

（事務局）安芸市建設課：大坪課長、（自動車道推進室）宮地室長、戸島主任、

村永主幹

昭和（株）：西久保、上村、古賀

1. 開 会

2. 議 事

（1）策定スケジュールについて

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料1	策定スケジュール（変更案）
委員	都市計画審議会の中間報告は、第3回策定委員会の中間報告を終えた後に行うべきではないでしょうか。
事務局	第3回策定委員会の中間報告は、都市計画審議会の中間報告をしたことについての報告という意味合いです。

（2）安芸市の現況整理（修正）について

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料2	安芸市の概況（現況・見通し）
委員	安芸総合庁舎が高知県東部地域の防災拠点とありますが、県の防災の位置づけがされているのですか。
事務局	安芸市道路交通網ビジョンの記述を引用したものでしたが、確認いたします。
委員	産業について、安芸市は観光でちりめんじゃこを売り出しており、水産業についても整理するべきではないでしょうか。
事務局	水産業についての記述を追加します。
委員	災害について、「近くに高台や高いビルなどない所では津波避難困難者が多数想定されます」という記述がありますが、安芸市では津波避難困難者の解消に向け、高台や高いビルがない地区においては避難タワーの整備などの一定の対策を行い、その次の対策として、より安全な避難について検討を行っていることから、「多数想定される」という表現はそぐわないのではないのでしょうか。
委員	津波避難計画から引用されていると思いますが、避難タワー等の整備によって、津

委員長 事務局 委員	波避難困難者を解消しています。 最新データを反映して表現を変えられてもいいのではないのでしょうか。 わかりました。 自主防災組織は細分化が進められており、最新の組織数の資料を提供しますので、差し替えをお願いします。 また、津波浸水予測の安芸市域の最大浸水深の図面について、安芸市全域が入っていますか。
事務局 委員 委員	資料提供についてはよろしくをお願いします。図面については再度確認します。 統計データは年度を合わせた方が良いのではないのでしょうか。 築 30 年以上の公共施設が 57.2%とありますが、安芸市として老朽化や耐震化の計画をたてていますか。
委員	空き家の対策や住宅の耐震化を行っています。空き家については、老朽化する前に修繕し活用できるように支援しています。
委員長 委員	公共施設についてはどうでしょうか。 小・中学校の統廃合の計画に合わせて耐震化を進めており、公民館も順次耐震化が行われています。
委員	「土居廊中」を「土居廓中」に修正してください。
委員	津波浸水予測の安芸市域の最大浸水深の図面については、赤野駅と赤野小学校を入れてください。 井ノ口地区、東川地区、畑山地区においては津波浸水区域がないとありますが、井ノ口地区は浸水区域ではないのでしょうか。確認をお願いします。
委員 事務局 委員長 委員 事務局 委員長	井ノ口地区、東川地区、畑山地区においては、地震・津波被災者を受け入れるための避難収容施設の整備が必要という記述がありますが、東川地区や畑山地区では大きな地震の際に大人数を受け入れることができないのではないのでしょうか。アクセスできる道路も少ないと思います。 資料の出典を掲載するとともに、内容を確認します。 古い資料からの引用のようですので、最新の現状に合わせて修正をお願いします。 災害については、地すべり防止区域や土砂災害警戒区域も追加した方が良いと思います。 わかりました。 前回のマスタープランの目標人口 2 万 1,000 人に対し、現状は約 3,500 人下回っており、また、当時の推計人口 1 万 9,800 人に対しても約 2,000 人マイナスです。 人口推計は将来への指標となり、市の色々な施策に反映されると思います。次回以降で、将来人口を踏まえた都市計画マスタープランの施策が盛り込まれると思いますので、議論していければと思います。

(3) 現行都市計画マスタープランの検証結果について

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料2 安芸市の概況（都市づくりの施策の評価）	
	特になし。

(4) 市民アンケートの実施について

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料3 市民アンケート調査結果	
委員長	観光分野で気になった数字がありました。「重点まちづくり分野について」の問いで「観光まちづくり」と回答した方は4人と少ないのに対し、「まちの将来像」の間で「歴史的建造物や伝統文化などが伝承された歴史・文化が豊かなまち」は71人、「自然や郷土資料を活かした観光客が訪れるまち」は123人と回答が多く、同じ分野で矛盾があるようです。
委員	観光客にお金を使ってもらえるような施設・店舗が少なく、観光業を生業としている人も少ない。市民は観光について関心がありますが、必要性を実感できていないということが悩ましいところだと思います。観光客に使っていただいたお金を市民に還元できるシステムや店舗、商店街の方にも観光客が回ってもらえる施策など、市民が実感できる取組が必要だと思います。
委員長	阪神タイガースのキャンプには多くの人が来ていますが、中心市街地には人の流れが少なく、もったいないと思いました。お金を使っただけの仕組みづくりを、今後の課題として検討いただければと思います。
委員	「地震や水害に対する安全性」の問に対して、「不満」や「やや不満」が5割を超えており住民の意識は高いと思われます。今後、施策に防災・減災について盛り込まれてくると思っています。また、「防災・減災まちづくりの重要な施策」の問いでは地震や津波に関する選択肢が少ない気がしました。
事務局	先ほどのご発言にもありましたが、避難タワーなどの主な施設は整備されており、その場所に行くための、「緊急輸送路となる主要道路や身近な避難道路の整備」などが今後の重点施策になるというお話をお聞きしていましたので、選択肢として入れました。
委員長	「まちの将来像」の問いの結果が、今後の将来像の検討に反映されると思います。「森林や農地の保全・活用」の問いにおいて、農地の保全における市民の関心が高いという結果になっていますが、農業の発展や農地の保全についてご意見はありませんでしょうか。
委員	J A土佐あき管内では、レンタルハウス事業や後継者の誘致活動等を行っています。安芸市においても補助事業の活用やレンタルハウス事業などにより、後継者やUターン・Iターン者が増えています。
委員長	高知大学には農林海洋科学部があり、10年ほど前からインターンの受け入れを行っていると聞いています。
委員	「安芸中インターチェンジ（仮称）周辺のまちづくり」の問いについては、どの選択肢の回答も同数程度で、市民の意向としてもはっきりしていないようです。また、ワークショップの参加人数も人口の割には少ないように思いますので、ホー

委員長	ムページに市案を掲載して意見を募集してはどうでしょうか。 来年度にパブリックコメントや説明会を実施予定とのことですので、ホームページ等で情報を公開して、多くの市民の方に関心を持っていただくことが必要だと思います。 ワークショップについてはポスター等でお知らせされていたようですが、「まちづくりの参加意向」の問いで「自分から進んではやらないが、協力を求められれば参加する」という回答が多いことから、参加を躊躇された方が多かったのではないのでしょうか。そういった意味ではアンケートによる結果が出ましたので、これを踏まえて今後の方針を考えていければと思います。
-----	--

(5) 市民ワークショップの実施結果について

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料4 市民ワークショップの実施結果	
委員長	市民ワークショップの時間は2時間で足りませんでしたでしょうか。
事務局	時間の都合上、まとめに移らざるを得ないこともありましたが、活発な意見を出される方が多く、まちを活性化したいという熱意を感じました。

(6) 主要課題及び将来都市像の検討について

- ・事務局からの資料説明後に、以下の質疑応答。

資料5 主要課題及び将来都市像の検討について	
委員	「災害に強いまちづくり」の「スポンジ化対策」について、スポンジ化して密集市街地に空地が増えれば逆に災害の被害が少なくなると思うのですが、防災の分野でどのような施策をイメージされているのでしょうか。
事務局	空地よりも空き家対策の視点で入れました。
委員長	空き家は火災時に延焼しやすくなります。 スポンジ化というのは、スポンジのように穴が開いているような都市の状況を表現した言葉です。安芸市を含め全国的な傾向ですが、固定資産のこともあり、解決が難しい問題になっています。
委員	基本方針の一番目の「安心してらせる人にやさしいまちづくり」について、子育て世代や高齢者に障害者を加えて頂いて、元気に暮らせる環境づくりに取り組めば、どなたも安心して元気に暮らせるようになると思いますので、この視点もぜひ盛り込んでいただきたいと思います。
委員長	また、移動交通手段として自家用車利用が非常に多くなっていますが、歩く機会が少なくなることで糖尿病等の生活習慣病が増える傾向にあります。安芸市では平成10年度から健康文化のまちづくりに取り組んでいます。本人が努力しなくても健康に生活できる環境づくりが重要と考えており、自家用車を利用しなくても歩いて生活しやすい環境をつくるという視点も盛り込んでいただきたいと思います。 新駅についても、必ずしも自家用車で行かなくても駅から歩いてあき病院に行けるようなアクセスとすることで、結果的に健康につながっていくと思います。 また、トリップという考え方があり、あるところに移動してから、また別のところに移動しようという時に、その距離が離れていると全て車で移動してしまい、なかなか歩いて回遊ができないということになります。先ほどの視点は非常に重要だと

委員	思いますので、盛り込むことを検討いただければと思います。 基本方針としては概ね集約されていると思います。基本方針に基づいた具体的な施策の検討が重要になるかと思いますが、都市計画マスタープランにはどこまで具体的に示すのでしょうか。
事務局	基本方針に基づき、ある程度広がりを持った拠点や、線としては概ね道路計画が進められているものによる軸を設定し、面としては、商店街の活性化をしなければならないところ、新たな住民が生活できるところまでを設定できるかどうか検討して、都市構造をお示しできればと考えています。 また、基本方針の項目については、文章化を行い、具体的な重点プロジェクトの掲載については、委員のご指導や市の関係課と調整しながら検討していきたいと思っています。
委員	市民アンケート調査の「自由意見」の内容についても、基本方針に盛り込まれていると思いますが、せっかくいただいたものなので具体の意見について箇条書きで結構ですのでいただきければと思います。
事務局	自由意見について、市庁舎移転など、市の課題となっていることに対する励ましと叱咤が主なものでした。具体的な意見として取りまとめを行う予定です。
委員長	一つ一つの意見をみていくと、かなりのボリュームになりますが、今回の資料はその結果を簡潔にまとめられたものとなっています。 ただ、貴重な意見としていただいていますので、すべては難しいかもしれませんが、できる限り整理していただき、この意見に関してはこのように対応したとわかるようにすれば、自分の意見が市の計画に反映されたとなり、やりがいにもつながると思いますので、ご検討いただければと思います。
委員	今後、A I や I C T などの活用が求められてくると思います。医療介護や公共交通、防災などの分野でネットワーク化が進んでいきますので、これらを盛り込んでいくべきだと思います。都市計画の分野でのご意見をいただければと思います。
委員長	都市計画の分野では、今後は都市がサイバーシティになるという話があります。サイバーシティでは、物理的な距離ではなく、I C T などにより距離は関係なくなることが概念としてあります。 交通においては、実現化に課題がありますが、公共交通空白地域での無人走行車の活用があります。また、タクシーの新しい仕組みであるウーバーは予約システムが簡単です。I C T が使われていない公共交通であるデマンドバスやデマンドタクシーを電話で1日前に予約する仕組みでは、スケジュールが決めづらく利用しづらいこともあります。 これらを都市計画マスタープランに反映できるか難しいところですが、可能性として記載しておけば、今後の検討が進められるかと思っています。
委員長	基本方針として「災害に強いまちづくり」がありますが、防災に関する地元業者の状況としてはいかがでしょうか。
委員	昨年7月の豪雨災害の対応を行っています。
委員長	昨年12月に安芸川沿いを歩きましたが、法面等が壊れて大変な状況でした。昨年の災害が大きなターニングポイントであったと思います。 県内の業者も西日本豪雨の関係で岡山から応援の要請はあったが、とても対応でき

	る状況ではなかったと聞いています。災害は毎年起きる訳ではないため供給側を増やすわけにもいかず非常に難しい問題です。去年は市内の業者も忙しかったのでしょうか。
委員	同じような状態でした。
委員長	災害が発生した場合は、県との協定を含めてすぐに対応できるようにしておく必要があります。
委員長	次回の予定としては、今回の基本方針（案）及び施策例を踏まえ、拠点等を位置付けた構造図や全体構想についての議論になるかと思います。

3. 閉 会